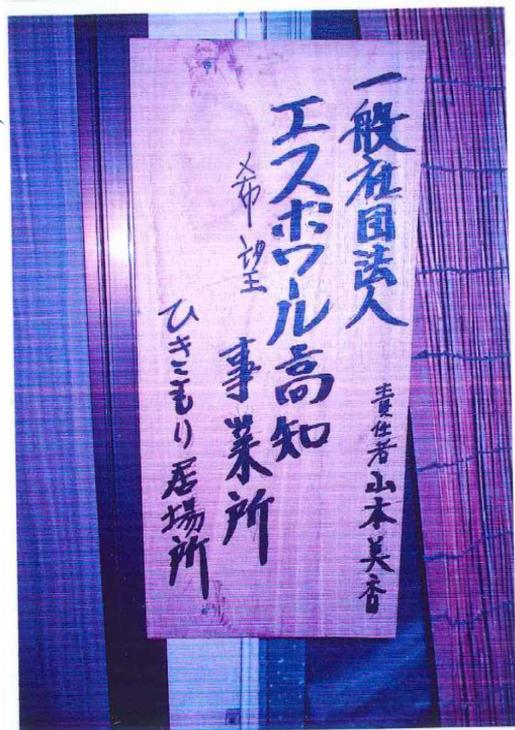
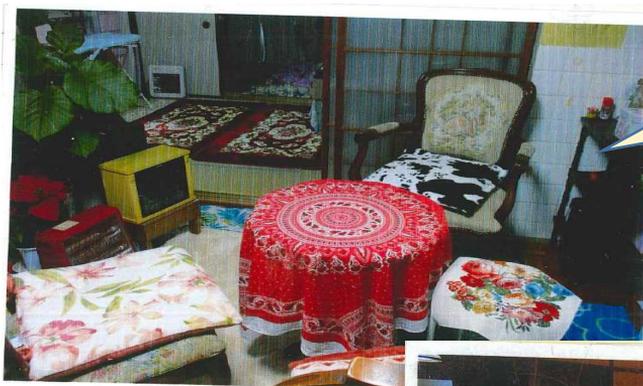


# ～「エスポワール高知」日々の活動1～

一般社団法人「エスポワール高知」203号玄関



相談面談をしている場所



クリスマス会の様子





岡林ナス農園で当事者が体験就労するため、同行する。その後就労。

## ひきこもり回復 道のり語る 高知市でシンポ

### 時間とタイミング大切

県内外のひきこもり経験者が、当時の心理状態を回復への道のりを語るシンポジウムが20日、高知市で開催された。体験者や親の参加を紹介する。

■体が動かかなかった

高橋さん(46)は某の外資系IT企業に35歳まで勤めた後、農業志し転居して努力奮闘して高知県に移住した。

来高は年目、約1万坪のハウスでトマトなどを栽培していたが、台風でハウスが壊れ数千株全滅。心が沈み、カマも閉門も閉め、夜間騒音に物にげ外出するのようになった。

約3年間の引きこもった高橋さん(2019年)の「ひきこもりの道のり」を振り返る。次期で社会復帰したい欲求が生まれ、助言が耳に入るように、支援団体の仲間とのつながりが生まれ、他者があきらめられたいと思えるようになっていった。

現在は当事者支援にあたる高橋さん(1)助言が耳に入らない時期に過度に渉された、奥の安全が脅かれないか不安になる。当事者がこのタイミングにいるか注意深く見守る必要がある。このタイミング、奪い取る時間の大切さを学んだ。

### 助言よりも信頼関係築いて

■往路と帰路

シニアのコミュニティを始めた「高知市民の会エスポワール」本部、京都市代表、今年高知市に「限界家族支援センター」を設立した山田孝明氏(49)と山田佳子氏は「ひきこもりは往路と帰路がある」と指摘。35年以上ひきこもりを経験してきた高橋さん(1)に語りかけた。ひきこもりなど、個人と個人と接すれば

と思っても必ずパワハラが起る。パワハラが嫌なだけで、また嫌々」と言葉を囁かした。

■どう接すれば

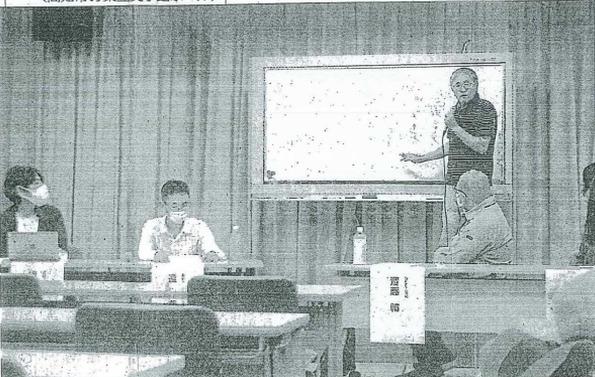
来場者の中には、ひきこもり状態にある中高生もいる。また高知市には、ひきこもりに悩む中高生もいる。高橋さん(1)は、親が勉強会参加に押し寄せたと言った。今、高知市でひきこもりの当事者や親の参加を促している。高橋さん(1)は「お前が悪い」と言われて止まらなくなった。高橋さん(1)は「お前が悪い」と言われて止まらなくなった。高橋さん(1)は「お前が悪い」と言われて止まらなくなった。

■あせりや

「はい、親はそう接しないが、山田さんは高橋さんの経験者だから語りかけた。

高橋さん(1)は「お前が悪い」と言われて止まらなくなった。高橋さん(1)は「お前が悪い」と言われて止まらなくなった。高橋さん(1)は「お前が悪い」と言われて止まらなくなった。

高橋さん(1)は「お前が悪い」と言われて止まらなくなった。高橋さん(1)は「お前が悪い」と言われて止まらなくなった。高橋さん(1)は「お前が悪い」と言われて止まらなくなった。



ひきこもり経験者や支援者が体験などを話したシンポジウム(高知市の県立文学館ホール)

令和3年11月にひきこもりの経験者によるシンポジウムを開催。高知新聞にも紹介されました。

# ～「エスポワール高知」まとめ～

## 一般社団法人「エスポワール高知」活動報告とまとめ

令和4年2月10日

<p>事業内容</p>	<p>ひきこもり自立支援のための、啓発事業          今の私共の活動は、<del>暴走</del>に過ぎませんが、高知新聞社、毎日新聞社、読売新聞社、共同通信社に早くから「エスポワール高知」の活動内容を発信していただきましたので、お電話がかかることによって、前半はたくさんの相談、訪問をお受けしました。皆様、ここに繋がっていただくことの安心は得ていただけたと思います。</p>
<p>別の活動として</p>	<p>支援者（ひきこもり又不登校）の方々との、意見交換、情報共有を頻繁に行い、親、当事者のきめの細かいサポートを話し合っています。          これからも継続してサポートしていきます。</p>
<p>今後の目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族からの相談から、直接、当事者に会えるチャンスを得ています。そのためツールの一つとして「当事者のお楽しみ会」があることを親から伝えてもらうとか、様子を見てこちらからお電話、お葉書をさせてもらっています。諦めないで伴走を継続したいです。</li> <li>・また、会員の中から、ピアサポーターにじゅうぶんになれる方がいますので、当事者同士の会とか、スキルアップのための研修も行っています。</li> <li>・親御さんはやはり就労をご希望されている方が多いので、安芸の「絆」の支援員の方々、又北村親農様、公文一也氏に協力していただいて、農福又、林福、水福に繋がられるような息の長い支援をして行きます。</li> </ul> <p>現在、十市のナス農（岡林さんハウス）には、5名繋がる事が出来ました。          （ミライズさんのサポート共同です）<del>又 かがみおろしサポーターもつなげています</del></p>
<p>まとめ</p>	<p>まだまだ親の不安から、家族の中がまとまっていない事が感じられますので、親を何らかの安心な心境になっていただくアドバイスからだと思います。</p> <p>そこから親子の回復のためには、日常の中からほめる工夫、当事者の好きなことを喜んで応援していただける親御さんになって（気づき）いただく、支援者側のスキルアップも必要と感じます。</p> <p>80・50問題は、限界家族と置き換えてください。働くだけが解決策ではないもっと多様なアプローチがあると思っています。</p> <p>ですから、これからも高齢になって益々困窮する家族のため、コツコツと支援を一緒になって（官民）心を寄り添っていきたくと思います。</p> <p>今後とも、私ども団体に厚いご指導のほど、よろしくお願い申し上げます。</p>